

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	14人	算数	14人	理科	14人
第5学年	国語	10人	算数	10人	理科	10人

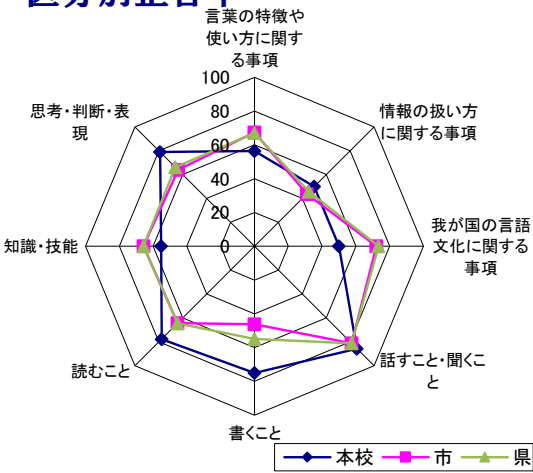
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	56.4	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	50.0	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	50.0	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	85.7	81.2	81.2
	書くこと	75.0	46.2	54.9
観点	読むこと	77.7	64.3	64.5
	知識・技能	55.2	65.7	65.7
	思考・判断・表現	79.0	64.0	66.3



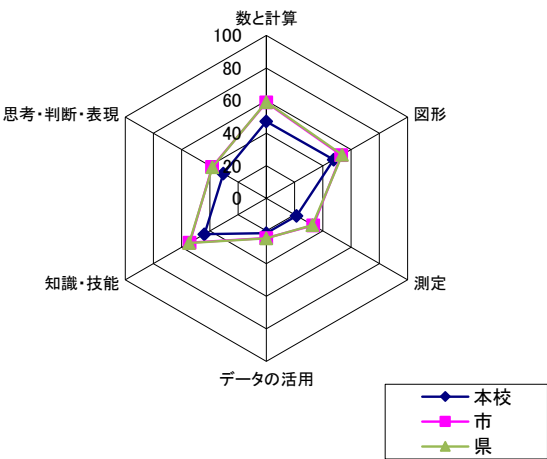
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	●平均正答率は56.4%で、県平均と比べて10.7ポイント低い。 ●対義語の問題の正答率は71.4%，ローマ字の問題の正答率は50%で、県平均より低い。 ○第3学年に配当されている漢字を正しく読む問題の正答率は、県平均より高い。 ●第3学年に配当されている漢字を正しく書く問題の正答率は、県平均より低く、無回答率が高かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習や宿題等で継続的に漢字練習に取り組み、定着を図る。また、課題の内容も、熟語の練習のみに限らず部首や画数に着目したり、熟語を使った例文を作ったりするなど、児童の関心を高めるような課題の取り組み方を工夫し、既習の漢字を使う習慣が身に付くようにする。また、国語科以外の学習活動においても、日頃から正しい言葉や漢字を使うよう指導の充実を図る。
情報の扱い方にに関する事項	○国語辞典の使い方の問題では、平均正答率は50.0%で、県平均と比べて4.3ポイント高い。	・国語科の教材の意味調べなどで国語辞典を使う機会を増やし、使い方や語句の並び方など基本事項について正しく理解できるようにする。また、当事者意識をもって情報を活用し、解決する力を身に付けられるよう、一人一台端末を日常活用のみならず広く活用する機会を増やしていく。
我が国の言語文化にに関する事項	●漢字のへんやつくりの問題の平均正答率は、50.0%で県平均と比べて23.4ポイント低い。	・漢字の構成や辞典の引き方について理解し、その知識を活用していく力がさらに身に付くよう指導の充実を図る。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は85.7%で県平均と比べて4.5ポイント高い。 ○司会者の話し方の工夫を捉える問題の正答率は85.7%で、県平均と比べて8ポイント高い。自分の考えを理由を挙げながら話す問題の正答率は100%で、県平均と比べて16.7ポイント高い。 ●司会者が参加者の考えをまとめる問題では、正答率が64.3%で、県平均と比べて11.9ポイント低い。話の内容を要約することができていない児童が多かった。	・国語科で学習した話し方のスキルを常に意識できるようにする。また、グループ等での話し合い活動の際には、「相手に伝わるように自分の理由を挙げて話す」ような活動を重視し、話す内容について観点を示して分かりやすく相手に伝えることができるようにするなどして、指導の充実を図る。
書くこと	○平均正答率は75.0%であり、県平均と比べて20.1ポイント高い。 ○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題の正答率は、県平均より高い。自分の考えを明確にして文章を書くことができています。	・国語科に限らず、各教科等においても考えをまとめる文章を書く際に、段落の役割について意識させたり、理由と事例をつなぐ文章の書き方に慣れさせたりする。「自分の考えを書く」活動を積極的に取り入れ、書くことに抵抗なく取り組めるようにしていく。
読むこと	○平均正答率は77.7%であり、県平均と比べて13.2ポイント高い。 ○説明文を読み、中心となる語や文を見つけて要約する問題では、正答率は92.9%で、県平均と比べて28.6ポイント高い。 ●段落を内容ごとに分ける問題では、正答率は42.9%で、県平均と比べて9.1ポイント低い。	・教材の読み取りの際に、児童が叙述に沿って考えることを特に意識して教材文を読むよう、継続して指導する。話し合いで多様な意見が出た際にも、教材文の叙述を基にしているかを軸にして話し合いを行う。段落の要点をまとめたり、場面の様子についてあらすじを端的にまとめるたりする活動を通して、読解力を高められるようにする。

宇都宮市立国本西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	47.2	58.9	59.2
	図形	47.6	53.0	53.7
	測定	21.4	33.1	32.6
	データの活用	21.4	24.4	24.6
観点	知識・技能	43.9	54.3	54.7
	思考・判断・表現	30.4	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

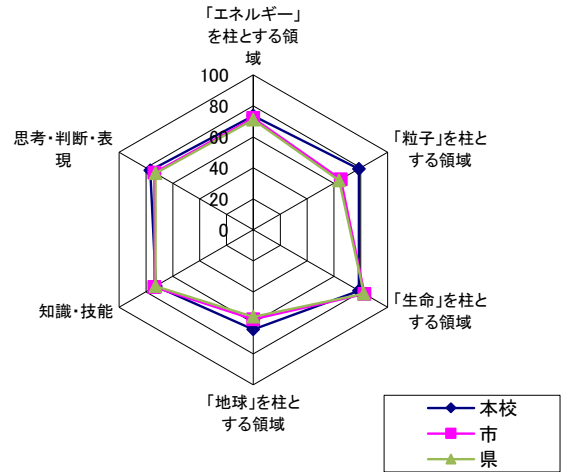
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○数量の関係について口を使って正しく表された式を選ぶ問題の正答率は71.4%で県の正答率を4.6%上回った。 ●平均正答率は47.2%で、県平均と比べて12ポイント下回った。 ●小数や分数の表し方を正しくとらえる問題では、すべての問題で県の平均を下回った。	・日頃から、式を単なる計算と捉えるのではなく、意味を考えて計算したり立式したりすることを繰り返すことにより、式の意味を正しく捉えられるようにする。
図形	○円の性質を利用して正三角形を作図する問題の正答率は50.0%で県の正答率を10ポイント上回った。 ●平均正答率は47.6%で、県平均と比べて6.1ポイント下回った。 ●二等辺三角形になる図を選ぶ問題では、二等辺三角形の性質は理解しているが、質問の意図が読み取れず、誤答している児童が多い。正答率が42.9%で県の正答率を25.2ポイント下回った。	・定規やコンパス、分度器の正しい使い方を理解するとともに、具体物やICTを活用して、図形の特徴を理解できるようにする。 ・問題を正確に理解し解答できるように、日ごろから様々な問題に取り組むようにする。
測定	●測定のすべての問題で県の平均を下回った。 ●平均正答率は21.4%で県平均と比べて11.2ポイント下回った。 ●はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題の正答率は7.1%で県平均と比べて19.8ポイント下回った。	・重さや長さを理解するために、実際に重さや長さを測る活動を授業で行い、日常生活の中からも重さや長さの感覚を身に付けさせるような活動を取り入れる。
データの活用	○示されたテーマについて、適切なグラフを選び、選んだ理由を説明する問題の正答率は14.3%で県平均と比べて3.7ポイント上回った。 ●平均正答率は21.4%で県平均と比べて3ポイント下回った。 ●棒グラフを読み取り、落し物の数が一番増えた種類を答える問題では、適切なグラフを選択できていない児童や、読み取るべき部分が理解できていない児童が多い。正答率が7.1%で県平均と比べて7.8ポイント下回った。	・複数の棒グラフを組み合わせたデータの読み取りなど、グラフの読み取りについては、算数だけでなく社会科などの他教科との関連を図り、データを通じて客観的に捉えようとする見方を養い、適切なデータ収集方法や分析の仕方を含めた問題解決の進め方を学ばせていく。

宇都宮市立国本西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	73.6	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	78.6	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	78.6	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	64.3	57.7	56.2
観点	知識・技能	72.6	73.8	72.8
	思考・判断・表現	76.8	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○平均正答率は73.6%で、県平均と比べて2.6ポイント上回った。 ○風が強くなるとものを動かすはたらきが大きくなるというはたらきの変化を読み取る問題の平均正答率は、県全体と比べて26.7ポイント上回った。 ●ゴムをのばす長さや車の動く距離の関係を答える問題の平均正答率は、県全体と比べて14ポイント下回った。	・実験結果から推測したり、思考したりする問題の平均正答率は低く、基礎的な知識の定着にばらつきがあった。各単元の知識を定着させるようにする。
「粒子」を柱とする領域	○平均正答率は78.6%で、県平均と比べて14.7ポイント上回った。 ○形を変えた紙の重さについて、正しいものを選ぶ問題や同じ体積でもものの種類によって重さがちがうことについて答える問題の平均正答率は、どちらも県全体と比べて上回った。	・今後も授業の中で、考察などを記述する学習活動を通して、適切な解答の仕方を身に付けさせるようにする。
「生命」を柱とする領域	●平均正答率は78.6%で、県平均と比べて3.8ポイント下回った。 ○植物のめばえについて理解しているか答える問題では、県平均と比べて9.0ポイント上回った。 ●虫めがねの使い方を身に付けているか答える問題では、県平均と比べて33.3ポイント下回った。	・昆虫のすみかや虫眼鏡の使い方についての知識など、定着していないものがある。授業中の実験やまとめを通じて一つ一つ理解させていく。
「地球」を柱とする領域	○平均正答率は64.3%で、県平均と比べて8.1ポイント上回った。 ○方位磁石の正しい使い方を答える問題では、県平均と比べて34.9ポイント上回った。 ●太陽が動く方位を理解しているか答える問題では、県平均と比べて12.3ポイント下回った。	・児童一人一人が主体的に観察したり調べたりする中で、それらの様子や周辺環境の変化などに着目させ、知識の習得を図り、その知識を活用して思考する力を身に付けさせていく。

宇都宮市立国本西小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の設問の肯定的回答の割合は高く一人一人が自力で解こうと諦めずに学習に取り組む様子が伺える。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の設問の肯定的回答の割合が高い。今後も学び合う学級の雰囲気大切にしていきたい。

○●「家で計画を立てて、勉強している」「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強している」「家で、テストで間違えた問題について勉強している」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」などの自分で考えて学習に取り組むことについても、自主学習の例示や声掛けなどをすることで、積極的に取り組む気持ちをさらに高めさせたい。

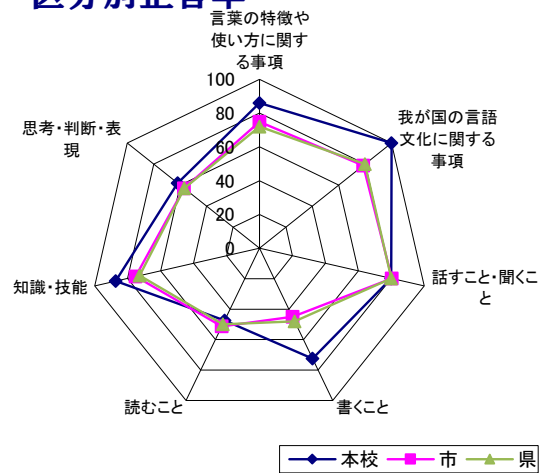
○「自分には、よいところがあると思う」「自分はクラスの人役に立っていると思う」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」という設問の肯定的回答割合が高い。自己肯定感や自己有用感の高さとともに、人の役に立ちたいという意欲が伺えた。

○●「家の人と学校のできごとについて話をしている」「人と話すことは楽しい」という設問の肯定的回答割合が100%である。また、「しょう来のゆめや目標をもっている」「家の人としょう来のことについて話すことがある」という設問の肯定的回答割合は、県の肯定的回答割合に比べ、高かった。帰宅後、家の人と話す時間が十分に取れている様子が伺えた。一方、一部否定的回答も見られた。引き続き、一人一人に気を配り、日常の様々な行動や発言を積極的に認めたりほめたりするよう心がけるとともに、家庭との連携を図るため、個人懇談や授業参観、連絡帳への記載等で、学校での児童の様子(よさや成長等)を保護者に伝えていく。

宇都宮市立国本西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	86.0	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	100.0	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	80.0	80.4	80.0
	書くこと	72.5	45.1	48.0
	読むこと	47.5	51.3	50.0
観点	知識・技能	87.3	75.2	72.8
	思考・判断・表現	61.9	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

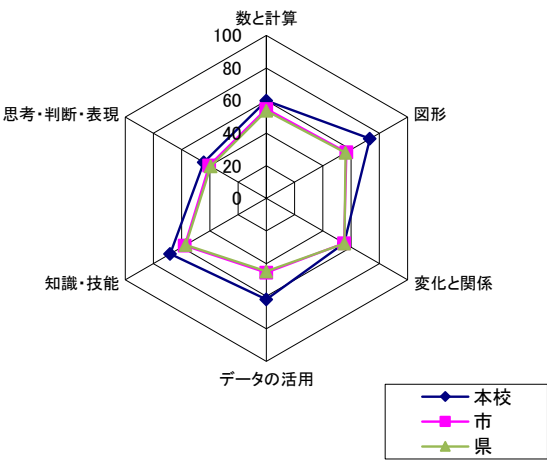
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率は86.0%で県平均と比べて14.0ポイント高い。 ○特に漢字の読み・書きに関しては、すべての問題で100%の正答率であった。 ●修飾語について、どの言葉を詳しく説明しているかを問う問題の平均正答率が10.0%で、県平均と比べて5.1ポイント低い。	・漢字に関しては、今後も漢字スキルや漢字プリントを活用して、定着を図っていく。 ・修飾語については、教材文中の修飾語と被修飾語の関係を考える活動を設定したり、宿題などで、問題を解かせたりしながら理解を深めさせていく。
情報の扱い方にに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は100.0%で、県平均と比べて20.1ポイント高い。ことわざの意味を知り、正しい使い方を十分理解している。	・学校図書館司書と連携し、ことわざに限らず、我が国の言語文化に関することに興味をもてるよう、読書環境や教室内の学習掲示物を整えていく。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は80.0%で、県平均と同じ正答率であった。 ●司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に、考えをまとめる問題の正答率は50.0%で、県平均と比べて14.8ポイント低い。	・今後も、目的に合わせて、相手に伝えたいことを整理し、まとめる練習をしていく。また、国語の学習に限らず、学級活動や児童会活動での話し合いの場でも、それらを生かした活動に取り組ませていく。
書くこと	○平均正答率は72.5%で、県平均と比べて24.5ポイント高い。段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことがよくできていた。	・今後も、ねらいや条件に合った文章を書く機会を設定し、文章を書くことへの抵抗感を減らしていく。 ・授業の中で文章を書く際にも、読み取ったこととそれに対する自分の考えを整理して書けるようにしていく。
読むこと	●平均正答率は47.5%で、県平均と比べて2.5ポイント低い。 ○叙述を基に文章の内容を捉える問題の正答率は60.0%で、県平均と比べて14.8ポイント高い。 ●叙述を基に段落相互の関係を捉える問題の正答率は30.0%で、県平均と比べて4.1ポイント低い。	・文章読解の問題集を活用しながら、様々な文章に触れ、段落相互の関係が着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係を捉える指導を行っていく。 ・読書指導により、物語を多く読む習慣付けをするなどし、登場人物への理解が深まるようにしていく。

宇都宮市立国本西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	60.0	54.9	53.7
	図形	73.3	56.6	56.1
	変化と関係	55.0	55.1	55.2
	データの活用	62.0	45.5	44.8
観点	知識・技能	68.2	57.8	57.2
	思考・判断・表現	44.3	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

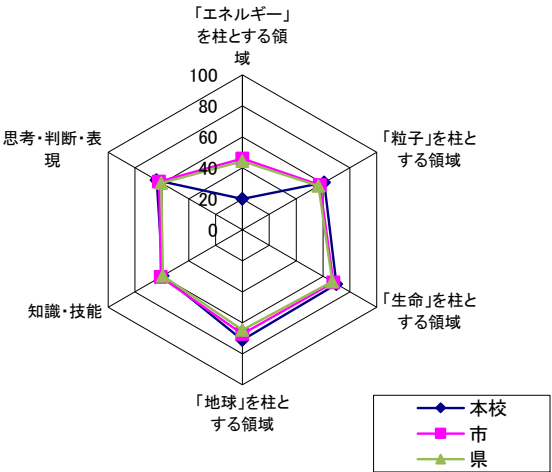
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は60.0%で、県平均と比べて6.3ポイント上回った。 ●小数のわり算の問題では、小数点を付け忘れた児童が多くいた。平均正答率は20.0%で県の平均を30.3ポイント下回った。 ●式の意味を言葉で表したのとして正しいものを選ぶ問題の平均正答率は40.0%で県の平均を22.4ポイント下回った。	・数の知識や計算の技能については、個別に習熟度を把握するとともに理解が不十分な内容について授業で取り上げ復習したり練習問題を解かせたりして、定着させていく。 ・理解が不十分な内容については、今後の学習内容と関連させ復習の機会を設定して補充する。
図形	○平均正答率は73.3%で、県平均と比べて17.2ポイント上回った。 ○角度や面積の求め方などの理解は、県の平均正答率を上回っているものが多かった。 ●立方体の展開図として正しくないものを選ぶ問題の平均正答率は70.0%で県平均と比べて0.4ポイント下回った。	・図形の面積の求め方については、複数の解き方を用いて求めることができるように、児童相互の考えの共有や異なる解き方の紹介を積極的に行い、定着を図る。 ・立体の学習では、作業的・体験的な活動を通して理解・定着を図っていくだけでなく、頭の中だけで展開図が組み立てられるよう、様々な問題に取り組ませていく。 ・ICTを積極的に活用し立体を可視化させることにより、立体への理解を深めていく。
変化と関係	●平均正答率は55.0%で県平均と比べて0.2ポイント下回った。 ○伴って変わる二つの数量の関係の理解は、すべての問題で県の平均正答率を上回った。 ●割合を使った比べ方について説明する問題の平均正答率は20.0%で県平均と比べて9.4ポイント下回った。	・伴って変わる2つの数量関係を学ぶために、日常生活においても経験できる部分を授業で扱うようにして、児童がより具体的にイメージをつかめるような意識をもたせて指導していく。 ・問題の状況を、数直線や図を用いて表し、数量の関係をきちんと把握できるようにしていく。 ・文章題における問題を正しく読み取り、問題の場面状況に沿った解答がいえるよう、問題の状況や場面のイメージをもたせる指導はしていく。
データの活用	○平均正答率は62.0%で、県平均と比べて17.2ポイント上回った。 ○すべての問題で県の平均を上回った。 ○折れ線グラフを読み取る問題の平均正答率は100.0%で県平均と比べて44.3ポイント上回った。	・今後も、表やグラフを読んだり表したりする活動を取り入れ、表やグラフを正しく読み取る力を育てる。 ・読み取ったことから考えられることを整理したり、活用して考えたりする学習も取り入れて、資料を分析する力を育てていく。 ・算数に限らず理科や社会科、総合的な学習の時間の活動とも関連させながら、教科横断的に指導していく。

宇都宮市立国本西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	20.0	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	61.0	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	70.0	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	71.1	67.2	64.6
観点	知識・技能	59.3	60.8	59.2
	思考・判断・表現	63.9	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	●平均正答率は20.0%で、県平均と比べて24.3ポイント下回った。 ●電気のはたらきに関する問題では、県平均と比べて大きく下回った。	・基礎的な内容の重要事項については、その単元の学習活動の中で繰り返し触れたり、日常生活に関係することに当てはめたりすることで定着させ、振り返りをするを積極的に取り入れる。
「粒子」を柱とする領域	○平均正答率は61.0%で、県平均と比べて4.4ポイント上回った。 ○とじこめた空気と水の性質を身近な出来事と関連付けることができるか答える問題では、県平均と比べて27.7ポイント上回った。 ●試験管の水面近くを熱したときの水のあたたまり方を理解しているか答える問題では、県平均と比べて12.1ポイント下回った。	・児童が見いだした問題に対して予想や仮説をもち、それらをもとに見通しをもって実験などの活動に取り組むことができるように授業を展開していく。 ・児童にとって観察・実験が難しい内容についても、丁寧に実験・観察を行うとともに情報機器や資料を効果的に活用して授業を展開していく。
「生命」を柱とする領域	○平均正答率は70.0%で、県平均と比べて3.1ポイント上回った。 ○季節と植物の様子について理解しているか答える問題では、県平均と比べて22.8ポイント上回っている。 ●ヒトの体のつくりと運動に関する問題では、県平均と比べて平均正答率が下回った。	・自然の事物・現象について抱いた疑問については、自主的に追究していけるような支援をし、既習の知識を生かして解決しようとする姿勢が身に付くように指導の充実を図る。 ・思考力・判断力・表現力を高めるために、学習の中で科学的な視点を提示し、それをもとに実験・観察結果をまとめたり、考察したりすることを積極的に取り入れる。
「地球」を柱とする領域	○平均正答率は71.1%で、県平均と比べて6.5ポイント上回った。 ○蒸発について理解しているか答える問題では、県平均と比べて32.4ポイント上回った。	・様々な角度から見たり、考えを深めたりすることができるように児童同士の話し合いや交流の機会を多く設けるような授業を展開していく。 ・自分たちで課題を作り、予想を立てて実験や観察を行い記録し、考察してまとめるという過程を大切に、主体的に取り組めるように指導の充実を図る。

宇都宮市立国本西小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思う」「自分はクラスの人の役に立っていると思う」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」という設問の肯定的回答割合が100%である。自己肯定感や自己有用感の高さとともに、人の役に立ちたいという意欲が伺えた。

○「家の人と学校のできごとについて話をしている」「人と話すことは楽しい」という設問の肯定的回答割合が100%である。また、「しょう来のゆめや目標をもっている」「家の人としょう来のことについて話すことがある」という設問の肯定的回答割合は、県の肯定的回答割合に比べ、高かった。帰宅後、家の人と話す時間が十分に取れている様子が伺えた。

●「自分の行動や発言に自信をもっている」という設問の肯定的回答割合は、県の肯定的回答割合よりも高いが、一部否定的回答も見られた。引き続き、一人一人に気を配り、日常の様々な行動や発言を積極的に認めたりほめたりするよう心がけるとともに、家庭との連携を図るため、個人懇談や授業参観、連絡帳への記載等で、学校での児童の様子(よさや成長)を保護者に伝えていく。

○「教科(国語、社会、算数、理科)の授業の内容はよくわかりますか」という設問については、いずれの教科も肯定的回答割合が100%であった。「教科の学習は好きですか」「教科の学習は、しょう来のために大切だと思いますか」という設問の肯定的回答割合は、県の肯定的回答割合に比べ、とても高い傾向が見られた。また、「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」という設問の肯定的回答割合が100%であった。さらに「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」という設問の肯定的割合も高く、県の肯定的回答割合に比べても高かった。これらの結果から、各教科の学習において児童が主体的に学んでいる様子が伺える。今後も、学習指導の向上のために、全校体制で校内研修に取り組んでいく。

○●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という設問の肯定的割合は100%だったが、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という設問には一部否定的回答も見られた。自分の考えを表現する活動の充実を目指し、発表する機会を多く設けるとともに、高め合う授業を展開するための環境づくりにも取り組んでいくような学習活動を今後も行っていく。

宇都宮市立国本西小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・思考する活動の充実	・「取り組みたい」「考えたい」と思えるような場を設ける。	・4・5年ともに、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の設問の肯定的回答割合は高い。また、「勉強していて、不思議だな、なぜだろうと感じることがある」「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の設問における肯定的回答割合も高い。
・自分の考えを表現する活動の充実	・互いに考えを出し合い、集団での試行錯誤を通して、自分の考えを広げ、深めることができる集団の学び合いの場を設ける。	・4・5年ともに、「話し合いに自分から進んで参加している」「話し合う活動を通じて、考えを深めたり、広げたりすることができている」の設問の肯定的回答割合は高い。しかし、「自分の考えや意見を発表することは得意」の設問では肯定的回答割合が高いものの、若干の二極化が見られた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」の肯定的回答が低い。	・自ら見通しを立てたり、自己の学習状況を把握して新たな学習に取り組んだりする力を育成する。	・効果的な問い返しや揺さぶりを行ったり、交流活動の工夫をしたりする等、教師のコーディネート力の向上を図る。 ・個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた学習活動の充実を図り、自ら見通しを立てたり、自己の学習状況を把握して新たな学習に取り組んだりする力を育成する。